

IMPI 51 報告



IMPI 51 Symposium (International Microwave Power Institute)報告

今年で 51 回目となる International Microwave Power Institute 国際会議 (IMPI 51) がマイアミの Sonesta Hotel で 7 月 20~22 日の期間に開催された。IMPI シンポジウムでは招待講演も含め 32 件の発表がゆったりとした時間と場所で行われ、また参加費には朝食、昼食、お茶代などが含まれていることから、マイクロ波の研究に対して時間をかけてゆっくり議論できる場が設けられた。JEMEA からはミネルバライトラボの松村先生と筆者が参加した。筆者は実行委員も兼ねての参加であったため、会期中に様々な運営の仕事を行わなければならなかったが、主な運営委員会の仕事は、参加者にどう楽しんでいただくか？有益な情報を与えられるか？機器展示者に満足していただけるか？などについてであり、これを開催前日の行われる VIP レセプション内で様々な知恵を出しあい、良いアイデアは会長や実行委員長の指示で、すぐに会へ取り入れられ実行された。このような裏方の努力とスピード感が、毎回参加者を飽きさせない新鮮な会の雰囲気を持していると感じた。



図 1 グループディナーへ向かう前の参加者の集合写真

シンポジウム発表者の中で若手賞が設けられており今年も 2 名の学生が受賞した。JEMEA 同様に IMPI も様々な学術分野の研究が混在する会であるため、一概に内容だけでは選出が難しい。そのため、審査内容には研究の質に加え、プレゼンの質、受け答え、発表態度までが含まれている。受賞者は賞状、賞金(100 ドル)、1 年間の会員費が無料になる特典がつけられた。また、機器展示では、説明を聞くとシートに展示者からサインをしてもらい、全部の会社の説明を聞くと、その中から抽選で 1 名が 200 ドルをもらえるイベントもクロージングリマークで行われ、参加者全員が最後

まで残るような工夫がされた。

IMPI 49 シンポジウム(2年前)において、筆者は「半導体発振器を利用した加熱の応用」について講演をした。その際の IMPI 会員の雰囲気は、興味本位で聴講されているような印象であった。しかし、昨年从那その雰囲気は盛り上がりに変化し、今年度のシンポジウムでは半導体発振器を利用した加熱応用の研究が全体の多くを占めた。また、機器展示についても半導体発振器関連の展示がほとんどを占めた。「10年ひと昔前」という言葉があるが、わずか2年でこのように様変わりするアメリカのスピード感に驚かされた。また、シンポジウム初日には、半導体発振器の可能性についてパネルディスカッションも行われ、肯定的・否定的な議論が活発に行われた。



図2 半導体発振器を利用した加熱の応用についてのパネルディスカッションの様子(RF エネルギーアライアンスが中心となり、アメリカ、ヨーロッパ、中国のメーカーがパネラーとして議論した)



第52回のIMPIシンポジウムは、ロングビーチで6月26-28日に開催されます。皆様の積極的な発表・参加をよろしくお願いいたします。

IMPI 52 サークュラーアドレス

http://impi.org/wp-content/uploads/2017/09/2018_Call_for_Papers_IMPI.pdf

IMPI 実行委員 堀越 智

上智大学理工学部物質生命理工学科

上智大学マイクロ波サイエンス研究センター

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

e-mail: horikosi@sophia.ac.jp